



医王山中学校

所在地：金沢市二俣町さ 2 1

電話：076-236-1013

F A X：076-236-1577

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/iouzen-j/>

校長名：山本 秀紀

学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援学級	合 計
生徒数	4	3	12	0	19
学級数	1	1	1	0	3

	校長	教頭	教諭等					養護	事務	校務	他	合 計
			1 年	2 年	3 年	特学	他					
職員数	1	1	1	1	1	0	2	1	(1)	1	0	9

1 平成 2 1 年度学力向上の取組内容の検証

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、計算・漢字等の反復学習、計算・漢字力試し、個別指導、業後の補充授業等を継続実施し、授業のねらいを明確にし、学習課題の明示、板書の工夫、まとめの場面を大切にしながらわかる授業を展開した。また、発表の機会を多くとることや個々の生徒の学習到達度を把握し、家庭学習用の課題プリントを課して家庭学習の指示、点検をした。英検や漢検の受検を全校生徒に呼びかけ、級取得を一つのモチベーションとして学習意欲を高めることもできた。

これらの取組により基礎的・基本的な知識・技能の一定の定着を見ることができたが、学習課題の提示の仕方や板書の工夫、家庭学習の指示・点検等では一層の取組が求められる。

- (2) 知識・技能を実生活や学習に活用する力の育成のため、体験できる教材の使用や資料の読み取り、辞書活用の習慣化等を行い、苦手な生徒には例や型を示して支援した。授業においては、学習内容に生活や身近な事象に結び付けて考える教材を使用したり、評価問題等に活用力を培う内容を取り入れた。

単元テストや定期テスト、全国学力・学習状況調査、県基礎学力調査等の学習状況より、活用力の育成が十分に達成できたと言える。しかしながら、今後さらなる継続実施が必要である。

- (3) 読解力や表現力の育成のため、読書活動を推進し、文学的文章だけでなく、新聞や科学雑誌など幅広い分野の読み物に親しませ、自分の意見を書いたり論じたりする力の育成を図った。また、授業の中で文章を書かせたり、他者の考えと自分の考えを対比させるなどの討論や意見発表の場面を取り入れるなどの工夫をして表現力の向上や互いの考えを深めさせたりした。

読解力や表現力育成のための取組は、生徒主張大会などの発表の場を設けるなどして、一定の成果を収めることができた。討論や意見発表力では生徒総会等で意見や質問を行う機会を設け、その向上を図ったが、今後の継続的取組が必要である。

- (4) 少人数を生かした効果的な指導については、一人一人の学習到達度を把握して、個々に応じたきめ細かな少人数学習を行った。また、全教職員やユースサポーターを活用した継続的な補充学習等を行うなど各教科で定着度の低い単元や領域を補いながら授業を進めた。

学校研究では、「きめ細やかな指導部会」「小中連携部会」の 2 つの部会に分かれて、全職員で研究を継続して進めているところであり、一定の成果をあげている。

2 学力等の現状分析

- (1) 国語

ア 知識についての問題は概ね理解している。活用についての問題は十分に理解している。

イ 漢字、語句、慣用句等についての理解がやや不十分である。

- (2) 社会

ア 社会的事象に対する興味関心は高いが、基本的な知識の定着に個人差がある。

イ 複数の資料を読み取ることや、資料を分析し思考・判断し説明する能力が弱い。

- (3) 数学

ア 知識についての問題・活用についての問題はともに十分理解しているといえる。ただ、理解していることを自分なりの考えをもち、発展させたり、生活の中でそれを活かそうとする姿

勢を育むまでには至っていない。

イ 図形領域の問題では、方向を変え考えるなど多角的な思考や考えを表現することが不十分である。

(4) 理科

ア 関心・意欲・態度、知識・理解に関する内容は十分理解している。

イ 科学的な思考、技能・表現に関する内容において、やや不十分な面が見られる。

(5) 英語

ア 基礎的な知識が十分あり、情報を聞き取って適切に応答することができる。

イ 情報を整理しながら状況について読み取ることはできるが、正しく伝わるように書くことにやや不十分な面がある。

3 学力向上の取組

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着

ア 基礎的な学力定着のために計算・漢字等の反復学習、個別指導、業後の補充授業等を継続的に実施する。

イ 授業のねらいを明確にし、学習課題の明示、板書の工夫、まとめの場面を大切にしたわかる授業を展開する。

ウ 少人数授業を生かして発表の機会を多くとることや個々の生徒の学習到達度の把握を行う。

エ 家庭学習用の課題プリントを課し、家庭学習の指示、点検をする。

オ 英検や漢検の受検を呼びかけ、級取得を一つのモチベーションとして学習意欲を高める。

(2) 知識・技能を実生活や学習に活用する力の育成

ア 体験できる教材の使用や資料の読み取り、辞書活用の習慣化等をとおして、活用することに慣れさせる。苦手な生徒には例や型を示して支援する。

イ 授業においては、学習内容に生活や身近な事象に結びつけて考える教材を使用したり、評価問題等に活用力を培う内容を取り入れる。

ウ 地域の自然を生かした体験活動を多く取り入れる。

(3) 読解力や表現力の育成

ア 読書活動を推進し、文学的文章だけでなく、論説文など幅広い分野の読み物に親しませ、根拠を挙げ、自分の意見を書いたり論じたりする力の育成を図る。

イ 授業の中で、他者の考えと自分の考えを対比し、討論や意見発表の場面を取り入れるなどの工夫をして表現力の向上や互いの考えを深めさせたりする。

ウ 各教科等指導の中で、言語活動を通して意欲的に学ぶ生徒の育成を図る。

(4) 少人数を生かした効果的な指導

ア 一人ひとりの学習到達度を把握して、個々に応じたきめ細かな少人数学習を行う。

イ 単元末テストの実施や、全教職員やユースサポーターを活用した継続的な補充学習等を行うなどして、各教科で定着度の低い単元や領域を補いながら授業を進める。

4 その他の取組

(1) 小中連携教育の推進

ア 一昨年度作成した「小中9年間を見通した学習内容の一覧表」、「9年間でつけたい力と手だて」を活用し、小中一貫した指導の推進を図る。

イ 生徒の個人学習状況票を作成し、現状を分析しながら個々の学力向上を図る。

ウ 授業の連携、相互参観、特設研究授業等の実施を通して、校種や教科を超えて日常的な意見交換や指導法を学び合う。

エ 小中連携の研究では、全職員を「小中教科部会1（算数・理科・体育）」「小中教科部会2（国語・社会・英語）」の2つの部会に分けて、教科等指導を中心としての言語活動の充実重点を置き、研究を継続して進めている。また、小学校6年から中学校1年時の移行をスムーズにつなげていくための資料を作成し、小6を対象に事前指導を行っている。

(2) 家庭との連携

ア 学校・学級だよりなどで保護者や、地域へ情報を発信し、生徒の学習状況を知ってもらう。

イ 保護者や地域の人をスクールサポーターとして活用し、学校のみならず家庭や地域も学力向上に関わっていこうとする気運を高める。